

☒ 話すこと ☐ 書くこと☒ 個に応じた教材の作成や指導の充実
☒ パフォーマンステストでの活用☒ 授業での活用
☒ 課外活動での活用☒ 家庭学習での活用実践の
ポイント

AIを使用した学習がもたらす「話すこと」への学習効果

実証概要

<校数>1校(高等学校:1校) <人数>160名(高等学校:160名)
<学年>高等学校:第1学年 <アプリ等> ELSA for Schools (駿台教育センター株式会社)
<AI機能について> ① 発音機能:生徒の発音内容をAIが分析・フィードバック。
② ロールプレイ機能:数十種類の場面設定からCEFRレベル等に合ったものを選択可能。
③ 学習管理機能:実行結果が記録される。学習時間・学習結果・能力評価を確認可能。

AIの効果的な活用方法や取り組み (AI英語モデル校事業)

● 授業でELSAを使用。「話すこと」を強化し、英語への関心を高め、英語で発信する意欲を向上させる。

- 教科書の英単語を音読練習とAI英会話(6月、11月、12月)を行ったところ、生徒は興味を持って活動に取り組んでいた。
- 積極的な発信を行える能力の育成に役立つ雰囲気生まれた。

● AIを用いた指導 ① AIによる音素レベルでの音声分析 ②モチベーションの向上

- ELSAは音素レベルで発音を分析するため、教員が指導しにくい役割を担いうる。発音指導は、1人ひとりに細かく指導するとなると時間がかかるため、生徒自身で発音の改善ができる点が効果的な活用につながる。また、AIとの会話の中で自分の考えを論理性に注意して話す力の育成につながった。

● ● 苦手な生徒も取組状況は良好！幅広い観点からAIによる英語力育成を！ ● ●

実践成果の検証結果 (AI英語モデル校事業)

①児童生徒の英語力の変化

- 6月:A1~A2⇒12月:A2~B1 になった生徒の割合は約50%であった。
- 「失敗を恐れずに」、「完璧でなくても会話を続ける」姿勢が向上。
- 英会話の量自体が大幅に増加。
- 積極的場面設定により英語力増強。
- 英会話において、論理性の高い英作文を会話の中で利用。

②児童生徒の関心・意欲の変化

- AI英会話の中で達成すべき項目が明示されるので、会話目標が設定できる。
- 友人とペアでAIと会話することで、間違いを恐れず会話できる。
- AI活用を通して、自分では使わない表現をAIを通して学ぶことによって、自己表現力が向上する。

③教師の指導の変化

- 授業でAI活用をすることで、発音の細かな指導が、一斉にできるようになった。1人ひとり発音指導をするよりも効率的な指導が可能となった。
- 各種コンテストではAIを上手に取り入れることで、自宅でも効果的な練習が可能となった。

AI英語活用リーダーの育成や普及に関する取り組み (AI英語活用リーダー事業)

● ネイティブスピーカーである海外の中高生と共同でAI英会話を実践

国際交流においてAIの可能性を探るため、海外の教員との情報交換を行った。

⇒ 校内でAIを使用した公開授業を行い、AIに頼る場面と教員が行う場面についての意見共有ができた。

事業全体を通じた成果や課題、今後の取り組み (AI英語モデル校事業・AI英語活用リーダー事業)

● どの場面でAIを取り入れるかの選定について

AIを使うと効率的に生徒に教える場面が多く期待できるが、生徒の習熟度に合わせた教師の助言(スピーチの際、難しい単語ではなく言いやすい単語を選ぶなど)も必要である。

- 限られた授業時間の中で大学入試に対応した力の育成と並行して、AI英会話の実施を可能にする工夫が必要。
- 加えて、教員の準備時間、生徒への説明時間を効率化しながら、帯活動時間を確保する必要が出てくる。
- ただし、英語が苦手な生徒もELSAへの取組が良好。AIには、幅広い観点から評価できる可能性を秘めている。